

井口喜源治 きげんぢ 教育家。明治二年五月二日信濃國南安郡穂高村  
生れ、昭和十二年七月十一日没（六五〇—一九六六）。號信天翁、東山、  
白雲居士。懸正松本中學校を經て、明治二十一年明治法律學校に入學。  
二十一年附添學のち、小布施高等小學校教師となる。二十六年親友相馬  
發藏等の結成した東穂高禁酒會に入會、二十八年東穂高村高等小學校  
正教員就任と、禁酒會の起した連正運動が學校側の反感を買ひ、自ら  
退職。二十一年附成義塾を創設、爾來病を獲て廢校に至る没年までの  
四十一年間、キリスト教主義の教育に當る。内村鑑三、山室眞平等とを  
親しく、また教へたる一人萩原守齋の二十回忌に「萩原守齋君小傳」  
を叫じた。

遺稿を收めた『井口喜源治』（齋藤茂編、昭和二十八年七月二十一日  
長野・研成義塾教友會。齋藤茂・横内三吾編、増補改版・五十一年

四月一日長野・井口喜源治記念館）刊。他に二種の『井口喜源治と研  
成義塾』がある（昭和五十五年四月七日長野・井口喜源治記念館編刊。  
南安豊教育會・井口喜源治研究委員會編、五十六年二月二十一日長野  
・南安豊教育會）。



井口喜源治

1976

井口喜源治記念館刊